



夢をかなえるには

2学期制を取り入れている福井市の学校では、1週間内に終業式と始業式の両方があります。終業式では、通知表をもとに担任の先生から1学期間の頑張りを褒めてもらえると良いねと話しました。また、ここを直すといいよと言われたことは2学期に努力しようとも話しました。そして、家に帰ったら担任の先生と話したことを家の人に伝えること。それが1学期最後の宿題だと話したのですが、子供たちなりに思いを伝えることは出来たでしょうか。

始業式では、夢をかなえるにはどうすれば良いかについて話をしました。ディズニーアニメの生みの親ウォルト・ディズニーの「夢をかなえる秘訣は4つのC」を紹介しました。

” The special secret of making dreams come true can be summarized in four C's.
They are Curiosity, Confidence, Courage, and Constancy.”

①好奇心(Curiosity) ②自信(Confidence) ③勇気(Courage) ④継続(Constancy)の4つですが、このまま小学生の子供たちに話しても難しいので、①興味を持つこと、②自分には良いところがあると言えること、③怖がらずに物事に向かうこと、④続けること 少し簡単に話してみました。子供たちに伝わったか不安でしたが、後日「夢をかなえるには4つのことに気を付けると良いと校長先生が話してたよ」と子供が家で話してくれたと、ある保護者の方から伺いました。先生達も応援するからいっしょに頑張る2学期にしよう



話すと頷いてくれる子もいました。子供たちの夢が叶うことを願います。

ヨルダンからの視察

皆さんはヨルダンという国をご存知でしょうか。人が浮かぶ塩分濃度で有名な死海を思い浮かべる人もいると思います。ヨルダンは難民を多く受け入れている影響もあり、学校は午前・午後の二部制が多く、教育面でも多くの課題を抱えているそうです。そこで、ヨルダンの教育関係者が福井大学教職大学院に日本の教育システムを学びに来て、木田小でも授業参観や子供たちとの交流の時間をもちました。私が案内した2年1組では、子供たちが日本の事を紹介すると、お返しにヨルダンの国歌を歌ってくれるなど、交流を企画した子供たちも喜ぶ場面が見られました。教室前廊下に掲示されたヨルダンの国旗を、嬉しそうに眺めている方もいました。

視察の感想として「アットホームな雰囲気の中で、喜んで勉強している」「授業のねらいがはっきり示され、熱心に課題に取り組んでいる」等の感想を話されていました。今回視察に来られたのは、国の教育政策を決めるような立場にある方々でしたので、木田小での経験が今後ヨルダンの教育に活かされていくと良いと感じました。

こういう機会を通して子供たちの国際理解が進み、言葉や習慣などの違いを受け入れるこ



とができる高い人権意識をもつ人に育って欲しいと思います。帰りには、視察のお礼に絵皿と観光ポスターをいただきました。



左は最後に撮った記念写真です。右は絵皿です。

今回、公開授業や交流に積極的に手を挙げた教員がいました。子供に主体性を求める以上、我々教員もそうありたいと思います。

校内体育大会

ひと月前の出来事になってしまいましたが、今年度の校内体育大会が9/29に行われました。今年度は、1～3年と4～6年に分かれた二部制での実施でした。コロナ対応など様々なこ



とを直前まで検討していましたが、当日は快晴に恵まれ、子供たちも保護者の皆さんも楽しいひとときを過ごしたのではないのでしょうか。子供たちの笑顔から嬉しさが伝わってきました。



教職員の働き方改革もあり、行事にかける時間は以前より少なくなってきました。私自身も、教職員や子供たちに過度な負担をかけたくない思いをもっているのです。体育大会のための練習にことさら時間を割くことには抵抗が

あります。反面、行事を通して子供たちが育っていく姿は幾度となく見えています。そんな葛藤を抱えながら当日の子供たちの様子を見てい



ると、やはり心の底には「行事は大切な教育のひとつだ」という思いが浮かんできます。

6年生は、体育大会の全てに関わっていました。事前の準備や応援の練習、当日の係などたくさんの出番がありましたが、一つ一つの活動に責任をもって取り組み、最高学年として立派に活動してくれました。さすが6年生と何度も褒めました。人のために働ける彼らは素晴らしい。

修学旅行 10/26～27



3年ぶりに県外への修学旅行が実施されました。出発に先立ち子供たちには私の思いを少し話しました。それは、なんといっても自分の目で本物を見ることの大切さです。左の金閣の写真でもその雰囲気は充分伝わるとおもいますが、やはり自分の目で見た本物の金閣



の感動は本人しか分かりません。出発式でも、初めて金閣を見るのが楽しみとのスピーチがありました。きっと心に残ったに違いありません。

東大寺の大仏や清水寺の舞台も、一度は直接観てもらいたい歴史的な建造物です。何百年の時を経て存在する素晴らしさを肌で感じたことでしょう。

今回の修学旅行中、子供たちは時間を守り自分たちで考えて行動していました。全国旅行支援が始まり、水際対策の緩和により外国人観光客も増え、コロナ以前の状況よりもさらにひどい人混みを経験しました。

金閣や清水寺での混雑ぶりには添乗のガイドさんも驚いていました。もちろんUSJは写真のような有様でした。この時期はハロウィンで仮装した人も多く、どのアトラクションも待ち時間1時間はざらだったようです。それでも、子供たちはパーク内をあちらこちらと動き回り目一杯楽しんだようです。この日の夜は体調を崩す子がいなく、我々教職員も朝までぐっすり眠りました。実はこれもなかなか無い経験でした。



体育大会や修学旅行など、コロナに翻弄されてきた行事の今後を考えると、子供たちが喜ぶ従来の姿に戻す事も有りと思いました。